

次に、市の施設についてお聞きいたします。

角野小学校用務員室についてです。

初めに、資料1を御覧ください。これは、角野小学校の用務員室の写真です。

この建物は、かつて鹿森ダム建設時の事務所として利用されていたと聞いております。築年数も相当経過しており、屋根は一部崩落、2階部分は床が抜けており、使用できない状態と伺っております。明らかに老朽化が著しく、倒壊危険家屋と同程度の危険性がある建物が、今もなお小学校敷地内で使用されているという現状は、極めて深刻な問題であると認識しております。

次に、資料2及び資料3を御覧ください。資料2は、旧角野消防団詰所の写真、資料3は、左側に旧詰所、右側に用務員室が写っており、両建物が非常に近接して建っている様子が分かります。

今回、角野分団の詰所が新設されたことにより、旧詰所は取り壊される予定と伺っております。しかしながら、そのすぐ隣にある用務員室については、取壊しの計画がないとお聞きしております。

地域の皆様からは、用務員室のほうが危険性が高く、先に取り壊すべきではないか、旧詰所を活用して、そちらに用務員室機能に移設できなかったのかといった御意見、御相談をいただいております。

そこでお伺いします。

今回の角野分団詰所の移転計画を策定する段階で、角野小学校の用務員室を旧詰所に移転し、老朽化した用務員室を撤去するという選択肢は検討されなかったのでしょうか。もし検討されたのであれば、その経緯や判断理由について御説明ください。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。後田消防長。

○消防長（後田武）（登壇） 市の施設についてお答えいたします。

角野小学校用務員室についてでございます。

角野分団詰所の新築移転に当たり、令和4年度から分団と協議を開始し、その後、庁内で協議を行い、中筋町、喜光地町及び立川町にある3つの分団詰所を維持管理していくには、大規模改修等に多額の費用が発生することから、統合新築移転することとし、移転後の旧詰所につきましては、利活用をせず建物を解体、土地を売却し、その売却益を財源の一部として充てることで、事業実施を決定いたしました。

このことから、角野分団詰所の移転計画を策定する段階において、他の用途に旧詰所を活用することは検討いたしておりません。

○議長（田窪秀道） 伊藤義男議員。

○2番（伊藤義男）（登壇） 次に、市役所内におけるチャットGPTの活用についてお尋ねいたします。

今回御紹介したような事例、例えば、危険性の高い用務員室を放置したまま、隣接する旧施設だけを取り壊すといった判断は、限られた予算の中で有効な活用がされていない、言わば予算の無駄遣いにつながりかねません。

また、こうした事例の背景には、部門ごとに縦割りで意思決定が行われている行政組織の限界も見受けられます。部局間の情報共有や水平展

開の不足が、非効率的な政策判断を招いている可能性があると感じております。

そこでお伺いします。

現在、市役所内でもチャットGPTなど、生成AIツールが一部導入され、職員の業務支援などに活用されていると承知しておりますが、こうしたAI技術をさらに進化的に活用し、例えば、市が保有する施設や土地の情報をあらかじめAIに入力し、併せて各部局が検討中の事業内容や活用希望条件もAIに入力した上で、AIが施設と事業のマッチング提案を行う仕組みを構築することはできないでしょうか。

こうした取組によって、遊休施設の有効活用や、不要な新設・改修事業の回避、さらには部局横断的な政策立案の推進などが期待できるのではないかと考えております。

市の見解と現時点での技術的可能性についてお聞かせください。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。加地企画部長。

○企画部長（加地和弘）（登壇）

市役所内におけるチャットGPTの活用についてお答えいたします。

チャットGPT等の生成AIは、大量の文書やデータを迅速に処理し、要約する能力に優れており、本市が保有する施設や土地の維持管理情報、事業計画等の情報を活用することで、一定の有効性が期待できるものと認識いたしております。

各部局が検討中の事業内容や活用希望条件をAIに入力し、保有施設とのマッチング提案を行う仕組みの構築につきましては、効果的な取組ではありますが、実現のためには、正確かつ詳細な情報を整備する必要があり、その情報量は膨大となることが見込まれます。

さらに、生成AIが出力する提案内容につきましては、その正確性や信頼性に課題が残されており、AIの活用による部局横断的な政策立案の推進には、情報の構造化を含む高度なデータ整備が前提となることから、現時点では、あくまでも補助的なツールとしての位置づけにとどめるべきものと考えております。

今後におきましても、生成AIの技術的進展を注視しつつ、その活用による行政運営の効率化や高度化の可能性について、引き続き慎重に研究を進めてまいります。

○議長（田窪秀道） 伊藤義男議員。

○2番（伊藤義男）（登壇） 角野小学校の用務員室は老朽化が著しく、倒壊の危険もあることから、児童の安全確保の観点でも早急な対応が必要です。旧詰所の取壊しが進む中で、より危険性の高い用務員室の存置が続くことは、市民の理解を得にくく、今後は建物単位ではなく全体の安全性、老朽度を総合的に判断して対応すべきです。

また、施設整備における情報共有や意思決定の見直しも重要であり、AIの活用による部局間の連携強化や施設情報の一元管理による効率化をぜひ進めていただきたいと思います。

限られた資源の中で、市民の安心、安全を守る実効性ある取組を期待し、次の質問に移ります。